

行政視察 小倉健一 議員

日時：令和元年7月18日(木)～7月20日(土)

場所：大分県大分市、福岡県福岡市

区間	交通手段		鉄道賃		特急急行	飛行機	その他	計
			キロ	金額				
佐野駅～羽田空港国内線ターミナル駅	鉄道	片道	111.7	1,630	1,030			2,660
羽田空港～大分空港	飛行機	片道	928.0			13,385		13,385
大分空港～大分駅	バス	片道	53.1				1,550	1,550
大分駅～博多駅	鉄道	片道	200.1	3,670	1,380			5,050
博多駅～天神駅	鉄道	片道	2.5	200				200
天神駅～福岡空港駅	鉄道	片道	5.8	260				260
福岡空港～羽田空港	飛行機	片道	1,041.0			13,385		13,385
羽田空港国内線ターミナル駅～佐野駅	鉄道	片道	111.7	1,630	820			2,450
								0
計				7,390	3,230	26,770	1,550	38,940

宿泊料@16,500×2泊	33,000 円
交通費	38,940 円
(うち航空運賃)	26,770 円)
計	71,940 円

上記の金額は、佐野市職員等の旅費に関する条例及び佐野市職員等の旅費支給規則により算出した金額である。

議事課庶務係長 恩田 俊彦



※金額や発行元などが、枠内に収まるよう、また重ならないように添付してください。

行政視察 報告書

報告者：小倉健一（会派に属さない議員）

視察期間：令和元年7月18日（木）～7月20日（土）

視察地：大分県大分市、福岡県福岡市

同行会派：新風

（1）7月18日（木）

場所：大分市役所

内容：「健康づくり推進条例」について

担当：大分市議会 副議長 宮邊和弘様

大分市議会議員 帆秋誠悟様

大分市議会議員 岩崎貴博様

大分市保健所 健康課 参事 白石清美様

大分市保健所 健康課 課長 中宗三和子様

市の概要 北は別府湾、東は豊後水道に面しており、西から南にかけて高崎山をはじめ緑の山々が連なり温暖で比較的降水量も多く自然条件に恵まれている。平成17年佐賀関町、野津原町を編入し、東九州の中核都市として発展。急速なテンポで発展し近年100年に1度といわれる大事業「大分駅周辺総合整備事業」が着々と進展。変貌を遂げている。面積は502.39㎢。総人口は477,858人、220,698世帯。

視察内容

【大分市議会の説明】

○議員政策研究会の政策条例づくりについて

全議員参加、全議員一致の全体会議を経た組織体とする研究会は平成20年大分市議会基本条例制定から複数の条例制定している。

○大分市健康づくり推進条例 制定の経緯について

施行まで約2年。（課題プレゼン→市民意見交換→骨子・条例案・・・）

【健康課の説明】

○「大分市健康づくり推進条例」平成31年4月1日施行

第2期いきいき健康大分市民21が推進計画として位置づけ

国が示す「健康日本21（第2次）」の主旨を踏まえ、市民と行政機関をはじめとして、関係機関・団体等が一体となって健康づくりを総合的

かつ効果的に推進することにより、誰もが「健康で安心して暮らせるまち」の実現を目指して、平成 25 年度から 10 年を計画期間として策定。

○計画の位置づけと条例の関係

国・・・健康日本 21(第 2 次)計画期間：平成 25 年～34 年

県・・・第 2 次生涯健康県おおいた 21 計画期間：平成 25 年～35 年

市・・・大分市総合計画「おおいた創造ビジョン 2024」

大分市

いきいき健康大分市民 21

計画期間：15～24 年度 ※中間評価：平成 19 年度



第 2 期いきいき健康大分市民 21

計画期間：25 年度～34 年度（令和 4 年度）※中間評価：平成 29 年度

↑
調和

- ・大分市食育推進計画・すくすく大分っ子プラン
- ・長寿いきいき安心プラン
- ・大分市障害者計画 その他関連計画

大分市健康づくり推進条例

(推進計画の策定等)

第 11 条 市は、健康づくりの推進に関する施策を実施するため、健康づくりの推進に関する計画（以下「推進計画」という）を策定するものとする。

(健康づくりの推進に関する施策)

第 12 条 市は、健康づくりの推進を図るため、次に掲げる施策を実施するものとする。

- (1) 栄養及び食生活に関する施策
- (2) 身体活動及び運動に関する施策
- (3) 休養及びこころの健康に関する施策
- (4) 飲酒及び喫煙に関する施策
- (5) 歯及び口腔の健康に関する施策
- (6) 生活習慣病の発症予防及び重症化予防に関する施策
- (7) 世代に応じた健康づくりに関する施策
- (8) 前各号に掲げるもののほか、健康づくりを推進するために必要な施策

関連事業

- 1 健康寿命の延伸と健康格差の縮小(目標:平均寿命を上回る健康寿命増加分)
- 2 主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底 9事業
- 3 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上 19事業
- 4 健康を支え、守るための社会環境の整備 2事業
- 5 健康に関する生活習慣病及び社会環境の改善 22事業

所感 佐野市の平均寿命は県内ワーストとなり健康寿命ともに延伸させることは喫緊のテーマ。大分市の場合、大分市健康推進条例が議会の政策研究会から40回以上の会議を経て制定となっており、効果についても細やかにチェック機能がなせていることも確認できました。また研究会の政策条例づくりのフローでの説明において、44名全議員の一致、必ず少数意見を聴き濃密なやり取りの合意形成を経ていること。このことには議員個々尊重姿勢が伺えると共に、条例制定の意味合いに幅を持たせることに繋がり感銘を受けました。本市では条例制定プロセスに繋がる研究会はなく、議会基本条例の策定委員会が行われている状況。今回は健康づくり推進条例のテーマでしたが、より市民目線の施策となるよう、議会からの条例制定の枠組み整備に努めなければなりません。



(2) 7月19日(金)

場所：①福岡市立東住吉小学校

：②福岡市役所

内容：「保育園及び小学校の医療的ケア児への看護師配置」について

担当：①福岡市立東住吉小学校 校長 辻優子様

福岡市教育委員会 指導部 発達教育センター 所長 野口信介様

福岡市教育委員会 指導部 発達教育センター 係長 樋口正幸様

②福岡市議会 議長 阿部真之介様

福岡市議会事務局総務秘書課 係長 植山誠様

福岡市こども未来局 子育て支援部運営支援課 課長 平川陽一郎様

市の概要 東アジアの主要都市が 1,500 km圏内にあるなど、アジアに最も近い物流・人流の拠点都市。「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を創り出し、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指して、次のステージへと飛躍させるチャレンジ「FUKUOKA NEXT」を推進。

面積は 343.39 km²。総人口は 1,538,681 人、741,071 世帯。

視察内容

①東住吉小学校

(見学) 校内にて登園児童のようす、教室や掲示物、保護者の方とお話。

(説明) 小中学校における医療的ケア支援について

事業概要

- ・小中学校において医療的ケアを必要とする児童生徒に対し、学校看護師等を配置して医療的ケアを実施。
- ・対象児童生徒の学習機の保障と保護者待機の解消を図る。
- ・令和元年度は小学校6校に学校看護師等を配置。
(各学校学校看護師1名、学校指導医1名)
- ・対象児童は6校8名。

看護師、指導医の確保や校外学習における医療的ケアの実施、保護者との連携など様々な課題があることを理解しました。

また校長先生からは対象児童を取り巻く現状とこれからのについて、「大変は不安からなるもの」誰でも携われるように職員の不安を看護師に払拭してもらう学校環境の取り組みなど伺いました。

②福岡市役所

○2019年度福岡市医療的ケア児保育モデル事業について

目的：平成28年度の児童福祉法の改正や平成29年6月の国の通知を踏まえ、公立保育所においてモデル的に集団保育が可能な医療的ケア児を受け入れ、保育を実施することにより、今後の医療的ケア児に対する支援に係る課題把握等を行う。

事業概要：30年度より、公立保育所7カ所のうち1カ所に嘱託看護師2名を配置することにより、集団保育が可能な医療的ケア児数名をモデル的に受け入れ、保育を実施。

31年度は、公立保育所4カ所に嘱託看護師10名を配置し10名の医療的ケア児を受け入れる。

対象児童：主治医意見書により集団保育が可能と判断され、ことば・身振り・表情等で意思疎通ができる1～5歳児の医療的ケア児。
(※事業期間は本格実施の移行を前提に3年程度を想定)

集団保育が可能かどうかの判断は行政機関や専門機関関係者、保育関係者等で構成する「医療的ケア検討会議」での協議を参考に決定。

所感

医療的ケア児の受け入れについて福岡市の先進的取り組みを学ぶことができました。見学させて頂いた東住吉小学校での対象児童の雰囲気、保護者さんの成長の喜びのお話、掲示されたその児童の力強い絵。何にも代え難い児童の成長は事業取り組みの環境整備、その効果と必要性を強く感じました。

緊急時対応の安全面、日々の衛生面など多くの留意点も確認できましたが、費用面も厳しい部分。しかし、課題はあるものの一人でも多くの子どもに同じ教育・保育環境が享受されること望まれます。佐野市においても今後さらにインクルーシブ教育の推進を図るところからも、子どもたちが隔てなく共に生活、学び合う環境を構築していかなければならないと思います。

